

植調協会だより

◎ 会議日程のお知らせ

・平成20年度冬作関係（麦類・いぐさ・水稻
刈跡）除草剤・生育調節剤試験成績中央検討会

日時：平成21年9月9日(水) 10:00～17:00

場所：第一ホテル両国

〒130-0015

東京都墨田区横網1-6-1

TEL 03-5611-5211

編集後記

4年前、利根川の縁に中古の家を買った。土手には青々とした草が揺れ、虫たちの飛び交う美しい環境である。家には狭いながらも庭があり、歩き始めた我が子とのこれからの生活を思い、少なからず興奮したのであった。

前の持ち主のYさんは、まめまめしい人物だったらしい。庭には築山がこしらえてあり、整枝された植木が四季折々の花を咲かせる。地面には雑草など一本も生えていない。隣の奥さんが「Yさんは庭に出ていない日が無かったのよ」というのも頷ける。

まもなく、Yさんの偉大さを思い知るところとなった。一面土色だった我が庭の地面に、次々と草が芽生え始めたのだ。築山にはブチのようにロゼットが張り付いている。ハルジオン、ハハコグサ、オオアレチノギク、オニノゲシ…。手前味噌ながらこの頃は自社の本「校庭の雑草」のロゼット一覧が役立った。

抜いても抜いても草は現れる。深刻さも労力も比べものにならないが、田の草取りの苦労を改めて思ったことである。

やがて私たちは、望みをやや低くすることにした。グラウンド・カバーと考え、抜くの

ではなく“伸びたら、刈る”方式に切り替えたのだ。かくして、芽生えた草はすくすく生長し、めでたく成植物となった。この頃には「校庭の雑草」第2部が重宝であった。

それにしても私も問題だが、連れ合いも相当に庭管理に向いていない。向いていないどころか邪魔をする。枯死したバラの鉢植えを引き抜いた際、採取したカミキリムシの幼虫十数匹を、節分の豆まきよろしく庭にぶちまけたりするのだ。果たして翌年、カミキリムシにやられ、モモの木が枯れた。地面にはドクダミやカタバミまで生えてきた。整然としていた庭が、だんだんに草原と化していく様子は、まさに群落の遷移そのものであった。

さて、今年こそは一念発起して庭をきれいに…と思っていた矢先、邪魔をする人物がもう一人現れた。長男が虫好きになったのである。虫捕り網を手に、セミやらバッタやら集めてきては庭に放す。彼いわく「虫放すのにはさ、草、いっぱい生えてた方がいいよねえ?」。困惑と“渡りに舟”的な気分をない交ぜに親は頷き、我が庭の行き着くところは草原、と決まったのである。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 (03) 3832-4188 (代)
FAX (03) 3833-1807
<http://www.japr.or.jp/>

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小川 奎
発行人 植調編集印刷事務所 元村 廣司

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
植調編集印刷事務所
電話 (03) 3833-1821 (代)
FAX (03) 3833-1665

平成21年8月発行定価525円(本体500円+消費税25円)

植調第43巻第5号

(送料270円)

印刷所 (株)ネットワン